

2014年1月25日(土曜日)の東海新報に 被災地支援が紹介されました。



防災の絆 今年も

高島屋が売
上分で支援 保育園に「パンの缶詰」

陸前高田

大手百貨店の㈱高島屋が販
売する「パンの缶詰」が24日、
陸前高田市保育園協会が運営す
る竹駒町の竹駒保育園(村上
和加恵園長、園児52人)など
に贈られた。「復興支援の見
える化」として消費者が購入
した一部が充てられる企画。
浸水域を経由して通園してい
る子どもたちも多し、長時
間避難も予想される津波注意
報発令時などの、非常食など
として活用することにして
いる。

「パンの缶詰」を手に見
せる園児＝竹駒町

高島屋や、パンを製
造している㈱パン・ア
キモト(本社・栃木県
那須塩原市)の関係者
8人が訪問。村上園長
は「保育園が津波で壊
れた時、なかなかすぐ
にパンは食べられませ
んでした。助かります
ね」などと園児に語り
かけた後、高島屋クロ
スメディア事業部の田

村将史課長が園児一人
ひとりに手渡した。
園児たちは東北イラ
ストレーターズクラブ
によるかわいらしいイ
ラストのラベルをじっ
くりと眺めるなど、気
に入った様子。感謝の
思いを合唱に込めたほ
か、訪れた8人とハイ
タッチも交わした。

パンの缶詰はこれま
でも、高島屋の通信販
売カタログなどで人気
を集めていた。阪神淡
路大震災を機に開発さ
れ、3年以上の長期保
存が可能。ふっくらと
した食感も特徴で、宇
宙食としてスペースシ
ャトルにも搭載された
実績を持つ。

東日本大震災以降さ
らに注目が高まり、高
かりやすい形が人気を
集めているのでは。
(寄贈は、1回で終わ
らせてはいけないと思
っていた」と話し、笑
顔を見せた。



かわいらしいラベルデザイン
も特徴＝同

竹駒保育園は震災で
全壊被害を受け、昨年
3月に新園舎が完成。
現在は津波被害を免れ
た場所に構え、大津波
警報時には竹駒神社方
向などの高台にも避難
できる位置にある。

は、同園よりも沿岸部
にある住宅から通う園
児は迎えに来た保護者
とともに帰る。待機
とする方針。高台に住
宅があっても、来園時
に浸水域を走る国道3
40号を経由しなければ
ならない場合は、同
様の対応をとる。
協会では「発令時間
が長引けば、子どもた
ちが一泊する可能性も
考えられるだけに、備
蓄の充実につながる」と
感謝している。